

「計算と論理」 Software Foundations その2

五十嵐 淳

igarashi@kuis.kyoto-u.ac.jp

京都大学

October 22, 2013

今日のメニュー

Induction.v

- 場合分けに名前をつける (Case タクティック)
- 数学的帰納法による証明 (induction タクティック)
- 証明中の証明 (assert タクティック)

場合分けに名前をつける

- 場合分けの証明は読みにくい
 - ▶ どこまでが「ひとつの場合」なの!?

⇒ コメント・インデントをつける？

- ▶ 今どの場合を証明しようとしているか (特にコメントが画面の外に流れると) わかりにくい

⇒ Case タクティック！

- ▶ この教科書の著者謹製
- ▶ 教科書をこの部分まで読み込むと使えるようになる

Case を使って書き直した証明

```
Theorem plus_1_neq_0 : forall n : nat,  
  beq_nat (n + 1) 0 = false.
```

Proof.

```
  intros n. destruct n as [| n'].
```

```
  Case "n = 0".
```

```
    reflexivity.
```

```
  Case "n = S n'".
```

```
    reflexivity.
```

Qed.

デモ: 単なるコメントとの違い

- `andb_true_elim1` の証明

Case タクティク

- Case の使用は強制ではないが強く推奨
 - ▶ 後で読み返してわかる証明を書こう!
 - ▶ (Case に限らず, 一行の長さとかも気をつけよう!)
- 場合分けが入れ子になる時のための SCASE, SSCASE, ...
 - ▶ SCASE = subcase

今日のメニュー

Induction.v

- 場合分けに名前をつける (Case タクティック)
- 数学的帰納法による証明 (induction タクティック)
- 証明中の証明 (assert タクティック)

帰納法による証明

定理: 0 は足し算の右単位元

```
Theorem plus_0_r : forall n:nat,  
  n + 0 = n.
```

詰まる証明

Proof.

```
intros n. simpl. (* Does nothing! *)
```

「こういう時は場合分けでしょ？」

またもや詰まる証明

Proof.

```
intros n. destruct n as [| n'].
```

```
Case "n = 0".
```

```
  reflexivity. (* so far so good... *)
```

```
Case "n = S n'".
```

```
  simpl. (* また同じようなゴールが... orz *)
```

- 場合分けをいくら続けてもキリがない!
- n より1小さい n' について `plus_0_r` が成り立っていれば... ⇒ 数学的帰納法

数学的帰納法

$P(n)$ を自然数 n の性質について述べた命題とする

数学的帰納法の原理

「任意の自然数 n について $P(n)$ 」は以下と同値

- $P(0)$ かつ
- 任意の自然数 n' について $P(n')$ ならば $P(S n')$

単なる場合分けと違って, $P(S n')$ を示すのに, ひとつ小さい数では P が成立していること (つまり $P(n')$) を仮定してよい

- $P(n')$ を「帰納法の仮定」(induction hypothesis, IH) と呼ぶ

数学的帰納法の妥当性

個々の具体的な数 (例えば 4) について P が成立することが,

- $P(0)$ かつ
- 任意の自然数 n' について $P(n')$ ならば $P(S n')$ を組み合わせて導き出せる

数学的帰納法を使った証明

```
Theorem plus_0_r : forall n:nat, n + 0 = n.
```

```
Proof.
```

```
  intros n. induction n as [| n'].
```

```
  Case "n = 0". reflexivity.
```

```
  Case "n = S n'".
```

```
    simpl. rewrite -> IHn'. reflexivity. Qed.
```

基本的な使い方は `destruct` と同じ

- `intro` パターン
- `IHn'` が帰納法の仮定 (Coq が勝手に名前をつける)

数学的帰納法を使った証明(2)

```
Theorem minus_diag : forall n,  
  minus n n = 0.
```

今日のメニュー

Induction.v

- 場合分けに名前をつける (Case タクティック)
- 数学的帰納法による証明 (induction タクティック)
- 証明中の証明 (assert タクティック)

証明中の証明

- 以前に証明した定理は他の定理の証明中で使える
- 証明中でも「サブ定理」を宣言・証明できる
⇒ assert タクティック

```
Theorem mult_0_plus' : forall n m : nat,  
  (0 + n) * m = n * m.
```

Proof.

```
  intros n m.
```

```
  assert (H: 0 + n = n).
```

```
    Case "Proof of assertion". reflexivity.
```

```
  rewrite H.
```

```
  reflexivity. Qed.
```

- Case は , 読み易さのため
- assert $0 + n = n$ as H と書いてもよい

assert の挙動

- 新たなサブゴールとして assert された命題が追加される
- 前のゴールの文脈には assert された命題が仮定として追加されている

assert の応用

そこじゃない!

```
Theorem plus_rearrange_firsttry :
```

```
  forall n m p q : nat,
```

```
    (n + m) + (p + q) = (m + n) + (p + q).
```

```
Proof.
```

```
  intros n m p q.
```

```
    (* n と m を入れ替えればいいんでしょ? *)
```

```
  rewrite    plus_comm.
```

assert の応用

```
Theorem plus_rearrange : forall n m p q : nat,  
  (n + m) + (p + q) = (m + n) + (p + q).
```

Proof.

```
intros n m p q.
```

```
assert (H: n + m = m + n).
```

(* n と m の交換に特化 *)

```
Case "Proof of assertion".
```

```
rewrite -> plus_comm. reflexivity.
```

```
rewrite -> H. reflexivity. Qed.
```

(こうしなきゃいけないのはいつかと思うが...)

宿題：10/29 午前10:30 締切

- Exercise の `basic_induction`, `double_plus`, `beq_nat_refl`
- 講義・演習に関する質問，わかりにくいと感じたこと，その他気になること，を自由に．（「特になし」はダメです．）
- 解答を書き込んだ `Induction.v` をまるごとオンライン提出システムを通じて提出
- 友達に教えてもらったなら、その人の名前を明記